

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	COOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

## ルノーと日産のアライアンス

ルノーと日産のアライアンス(提携)は、幅広い分野で戦略的に協力する独自のパートナーシップです。1999年の締結以来、日産はアライアンスを通じて展開地域をグローバルに広げ、経済規模においても大きく飛躍してきました。2012年のルノー・日産アライアンスのグローバル販売台数は過去最高の810万台\*に達し、世界で販売された新車10台のうち1台がルノー・日産アライアンスのクルマとなりました。現在、ニッサン、インフィニティ、ヴェヌーシア、ルノー、ルノー・サムスン、ダチア、ラーダ(アフトワズ社)というブランドを展開しています。

\* 露アフトワズ社の販売台数を含む



### アライアンスのビジョン

締結当初は珍しい試みと思われたアライアンスですが、すぐに自動車業界における企業提携のモデルとなりました。その後、ドイツのダイムラーや中国の東風汽車公司、ロシアのアフトワズ社などとも幅広い協力関係を実現しています。そして現在、業界で最も持続的な効果を発揮しています。

アライアンスの基本的な考え方は、それぞれのブランド・アイデンティティや企業文化を尊重しつつ、株式の相互保有を通して互いの収益向上に積極的に貢献するというものです。現在、ルノーは日産株の43.4%、日産はルノー株の15%を保有しています。相互に株式を保有することで互いを信頼・尊重し合い、透明性の高い組織のもとで迅速な実行、明確なアカウンタビリティ、意欲的な水準の業績を目指しています。

▶▶ [website](#)

ルノーとのアライアンスに関する詳細はウェブサイトをご覧ください

### アライアンスの3つの目標

アライアンスは、利益ある成長戦略を策定・実行し、以下3つの目標達成を目指しています。

- 1 各地域、各市場セグメントで、製品品質、魅力品質、販売・サービス品質の3分野において、ベスト3に入る自動車グループであるとお客様から認識されること。
- 2 おのおの得意とする特定の領域で責任あるリーダーシップを発揮し、将来的に重要な技術で、世界のベスト3に入る自動車グループになること。
- 3 高い営業利益率を維持し、常に成長することにより、両社の営業利益合計額が、世界の自動車グループ中で常に3位以内に入る企業グループになること。

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	COOメッセージ	ブルーシズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

ルノー・ニッサンパーチェーシングオーガニゼーション(RNPO)などの共同購買組織や共同作業グループ、プラットフォーム・部品の共通化、生産設備の相互利用などを通じ、提携によるシナジーの創出に努めています。また、アライアンスは持続可能なモビリティの領域でリーダーシップを発揮することにも注力しています。

**ゼロ・エミッション領域のリーダーに**

ルノー・日産アライアンスは、再生可能なエネルギーのみで充電可能な100%電気自動車(EV)の幅広いラインアップを展開している唯一の自動車メーカーです。

2012年は「日産リーフ」の販売がグローバルに増加し、ルノーも新たに2車種のEVを発売したことで、アライアンスによるゼロ・エミッション車のグローバル販売台数は前年比83.8%増の43,829台に上り、ゼロ・エミッション車市場におけるグローバルシェアは64%\*となりました。2010年12月のEV発売から2012年末までのグローバル累計販売台数は67,723台でした。

中でも「日産リーフ」は世界で最も売れているゼロ・エミッション車として、2012年の販売台数は前年比22%増の26,976台を記録。2010年12月発売以来の累計販売台数は49,117台に達しました。

ルノーは2人乗りのアーバンコミューターである「トゥイジー」、インターナショナル・バン・オブ・ザ・イヤー2012を受賞した「カンゲー Z.E.」や、セダン「フルーエンス」をベースとした「フルーエンス Z.E.」、ゼロ・エミッションサブコンパクトカーの「ゾエ」を販売しています。

\*ルノーの2人乗り小型EV「トゥイジー」を除く

またアライアンスは、燃料電池車(FCEV)\*や将来的なゼロ・エミッション戦略への取り組みも継続して進めています。

**ダイムラーとの戦略的協力関係について**

ルノー・日産アライアンスは、他のパートナーとも積極的に戦略的提携を結び、スケールメリットを生かして新たな地域での成長を加速させ、各社の次世代パワートレイン研究開発費の負担を軽減し、持続可能な未来に向けたより厳しい環境基準にも対応するクルマを開発していきます。

この考え方に沿って、2010年4月にはダイムラーと戦略的な協力関係を結びました。長期に安定した関係を築くことにより、互いにスケールメリットが生まれ、新規投資や既存の生産能力を相互活用し、新商品・技術の開発コストを分担することが可能となりました。

両グループはその関係をより確かなものとするため、株式交換による相互出資を実施。具体的には、ルノーと日産それぞれがダイムラー株を1.55%保有し、ダイムラーがルノー株および日産株を各3.1%保有しています。



▶▶ page\_13

\*アライアンスによるFCEVの取り組みを掲載しています

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	COOメッセージ	ブルーシズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

2012年は、協力関係の成果を初めて目に見える形で紹介することができました。

- ルノーとダイムラー共同開発の1.5リッター4気筒直噴ターボディーゼルエンジンを搭載したメルセデス・ベンツの新型「Aクラス」を投入。
- ダイムラーはメルセデス・ベンツから、ルノー「カンゲー」をベースに共同開発の1.5リッターエンジンを搭載したエントリーモデル「シタン」を発売し、小型商用車のラインアップを拡充。ルノーのフランス・モーブージュ工場生産開始。

新たに発表された共同プロジェクトのうち、主なものは次の通りです。

- 日産とダイムラーが、日産の米国テネシー州デカード工場にメルセデス・ベンツ向け4気筒ガソリンエンジンを生産することを発表。2014年から生産を開始し、年間の生産規模はフル稼働時で25万基を予定。メルセデス・ベンツおよびインフィニティの両ブランド向けに供給予定。
- 日産とダイムラーは、ダイムラーが開発中の最新オートマチック・トランスミッションの開発・生産にかかるライセンス契約を締結。これにより、ジヤトコ株式会社がニッサンとインフィニティの両ブランド向けのオートマチック・トランスミッションを2016年からメキシコで生産予定。
- ルノー・日産アライアンスおよびダイムラーは2013年1月、フォードとFCEVの商品化を加速するための合意書に調印。世界初の手ごろな価格の量産型FCEVを早ければ2017年に発売予定。

また、2010年4月に発表された主要なプロジェクトも進捗しています。

- 車体構造を共同開発中の新型「スマート」と「トゥインゴ」は2014年中に投入予定。2人乗り「スマート」の生産はフランス・ハンバツハ工場、4人乗り「スマート」とルノーの「トゥインゴ」はスロベニアにあるルノーのノヴォ・メスト工場生産予定。
- パワートレインの相互供給および共同開発も継続中。ルノーはダイムラーに小型車セグメント（「スマート」および「トゥインゴ」）向け3気筒小型ガソリンエンジンおよび4気筒ディーゼルエンジンを供給。メルセデス・ベンツの商用車「シタン」向けエンジンの共同開発に加え、ルノーはメルセデス・ベンツの次世代プレミアム・コンパクトカー向けに部品を供給。ダイムラーは現行および今後のエンジンラインアップから4気筒および6気筒のガソリンエンジンおよびディーゼルエンジンをニッサンとインフィニティ向けに供給予定。